

(1ページから続く)

昨年夏には現地でカフェをオープン。3人の従業員を雇い、農家から取り寄せた野菜や果物などを使ったスムージーやオリジナル商品を販売している。まだ従業員は少ないが、目標の一つである雇用を作り出したことには手ごたえを感じている。

もやもや感抱いた学生時代 途上国の貧困解決に使命感

角田さんは1994年、東京の下町生まれ。挑戦派の父と慎重派の母のもとで育った。自身を「まずはやってみたいタイプ。衝動的な面がある」と分析するが、学生時代は周囲からの評価や社会のしがらみにとらわれ、もやもや感を抱いて過ごしていた。

2013年に明治薬科大学に進学。「薬剤師になりたい」という強い想いは持っていなかったが、自身の心身の疲弊をきっかけに医療や薬に興味を抱いていたという。

転機となったのは、大学1年時のインドネシアへの渡航だ。貧困地域を訪れ、大きなカルチャーショックを受けた。「恵まれた環境にない国の存在を初めて自身の目で見て認識した。相対的に世界中の国々と比較すると自分は恵まれた環境で育ってきた。そんな当たり前のことに気付いていなかった。そこから社会課題の解決に役立ちたいという勝手な使命感が生まれた」と振り返る。

世界の現状を目の当たりにした角田さんは、衛生環境の改善や医療アクセスの整備、雇用創出や人材育成に関心を持つようになった。在学中には、世界各国の薬局や医療施設を現地調査するため、東南アジアやヨーロッパ、中東など多くの地域を訪れた。

タンザニアとの接点が生まれたのは15年。社会課題をテーマに東京で開催された国際カンファレンスで、アフリカ諸国からの留学生らと出会ったのがき

地道な活動が評価され、今回で4回目となる30 Under 30 Japanに社会起業家枠で選ばれた。角田さんは「連絡は突然だった。受賞はうれしい反面、まだ結果を残せていない。やるべきことをやっていきたい」と語る。

っかけだ。「アフリカは貧しく、国際支援を求めているイメージがあった。しかし、留学生は自分たちで変えていきたいというパッションにあふれていた」と話す。そこからビジネスでその課題を解決したいという思いが生まれた。

大学5～6年時には、英国留学のほか、エジプトの製薬企業やタンザニア国営貿易企業にインターンシップ。19年の卒業時には、社会勉強も含め人材系の大手ベンチャー企業に就職した。外国人エンジニアや研究者の日本企業への就転職などを仲介する仕事で、法人営業などの経験を積んだ。途上国の雇用創出にもつながると感じ、充実した日々を過ごしていたが、アフリカへの思いは冷めず、個人で関連の仕事を請け負っていた。

起業を決意して退職したのは20年1月。新型コロナウイルス感染症の流行で計画がずれ込んだものの、現地進出への足掛かりとなる会社「Darajapan」を20年11月に日本で設立。3カ月後にタンザニア



ココナッツの皮(右)などを使い、新燃料の開発に挑戦している

に移住し、その翌月には現地法人も立ち上げた。

起業から約1年が経過した現在の状況を「10回挑戦したら9回失敗するイメージ」と苦労を語る。しかし、雇われて働く場合と違い、「自ら意思決定を下して実行できる分やりがいも大きい」と話す。

私生活にも大きな変化があった。会社経営などを手がけるタンザニア人と現地で出会い昨年6月に結婚。イスラム教の宗教観を尊重し、交際期間を経ずにスピード婚を決意した。心身面はもちろん、ビジネス面でも大きな支えになっている。

現地の人から見て角田さんは外国人。相場より高い価格で取り引きされたり、雇った人に売上金を着服されたりしたこともある。信頼できる人をどう見つけるかが、ビジネスのカギの一つになるという。今は総勢10人ほどのタンザニア人に事業に携わってもらっている。

雇用創出、医療環境の改善目指す

タンザニアで一番の課題と考えているのは貧困の格差だ。学校教育も不十分で、大学を卒業しても安定した職に就けない人は多い。「現地には働き先が少なく、子どもたちが夢を描けるロールモデルがない」と角田さん。自身が手がけるバイオマスブリケット事業を含め、製造技術者や物資の運搬ドライバーも雇い入れる計画だ。「何百人、何千人という規模の雇用も創出していきたい」と意気込みを語る。現地の人が支援なしに自立し、貧困から抜け出せる環境を整備したい考えだ。

現地の医療水準は低い。医師や薬剤師の資格を持つ人でもスキル不足を感じることもあるため、いずれは医療従事者の育成にも力を入れたいという。

医療アクセスを改善するため、今年1

月頃に現地でNPO法人「Be&Co Japan」を立ち上げる予定だ。日本で廃棄される自転車をタンザニアに持ち込み、医療従事者や患者に提供する。訪問診療や通院の足に使ってもらおう考えだ。

他には、病気になる前の健康増進や予防医療の意識向上を目的にしたワークショップなども開催している。いらなくなった食べ物などを原料に石鹸やエッセンシャルオイルを現地住民と共同で開発。将来的には商品化するなどして事業の一つとしたい考えだ。

今後しばらくはタンザニアに生活の拠点を置く。「エンパワーメント(活躍機会拡大や地位向上)に必要なことは現地で暮らさないと見えてこない。何年かかるか分からないが、ビジネスを軌道に乗せて他のアフリカ諸国にも拡大したい」と抱負を語る。大学生の時に芽生えた使命感が今も角田さんを支える原動力だ。



角田さん(中央)とタンザニア現地の人々

薬学生のための求人情報サイト

プレOPEN中!
先行登録受付

ファーネット2022&2023



病院求人件数

全国の病院・薬局を300件以上掲載!

<https://www.pha-net.jp/>

ファーネット

検索

ナンバーワン!

今すぐ
登録!

HUMAN NETWORK
UNIV

株式会社ユニヴ UNIV CO.,INC.
<https://www.univ.co.jp>

大阪本社 〒530-0047
東京支社 〒107-0052

大阪市北区西天満 3-4-15 公冠ビル 2F
東京都港区赤坂 3-2-2 日経第 24 ビル 7F

TEL: 06-6361-3601
TEL: 03-5549-2420

名古屋支社 〒450-0003
九州支社 〒810-0001

名古屋市中村区名駅南 1-23-14ISE 名古屋ビル 7F
福岡市中央区天神 4-6-7 天神クリスタルビル 14F

TEL: 052-533-0361
TEL: 092-721-1027

